

訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修とは…

福祉用具の安全確認トレーニング

●安全確認トレーニングとは

ひやりはっとなが起る直前のイラストをもとに、どんな危険がひそんでいるかを考え、安全対策を確認するトレーニングです。

●研修のねらい

安全確認のポイントを学び、安心して福祉用具を使うための基礎知識を習得します。



安全確認トレーニングキット

福祉用具の事故防止を視点とした事例検討

●事故防止を視点とした事例検討とは

事例をもとに、福祉用具を利用する場面ごとに、「人、福祉用具、環境」の観点から留意点を列挙するものです。福祉用具専門相談員は、実際に福祉用具を使う人に留意してほしいことを、訪問介護員は、福祉用具を使いながら留意すべきことを、互いに検討し、意見を交換します。

●研修のねらい

互いの計画書や業務内容を理解し、リスクマネジメントの視点を養うとともに、職種が連携する方法を確認しあいます。



ワークシート



研修の内容は、ふくせんホームページでも紹介しています。

http://www.zfssk.com/sp/1111_model/h.html

ご連絡・お問い合わせ

一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会

〒108-0074 東京都港区高輪3-19-20 高輪OSビル9F

Tel :03-3443-0011

Fax:03-3443-8800

<http://www.zfssk.com/>



福祉用具サービス計画と多職種連携の手引き

事故防止を視点とした「訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」



福祉用具は高齢者の自立支援と介護負担の軽減を目的に使用されますが、誤った使い方をすることで思わぬ事故につながることもあります。そこで、利用者宅を訪問し、福祉用具に触れる機会が多い訪問介護員の方に、「福祉用具サービス計画」を理解し、福祉用具を正しく使っていただく支援をお願いしたいと本会では考えています。

本会では、職種間の連携で正しい福祉用具の利用をサポートできる環境づくりが必要であるとの思いから、「事故防止を視点とした訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」を企画しました。DVDでは、この連携研修の具体的な方法を紹介しています。「福祉用具サービス計画」の活用による適切な利用支援の方法をDVDから学んでもらうとともに、同様の研修が各地で行われ、安全に安心して福祉用具を利用する環境につながることを期待しています。



【第1部】福祉用具サービス計画と多職種連携

- 1章：福祉用具サービス計画の意義
- 2章：福祉用具サービス計画とリスクマネジメント
- 3章：福祉用具サービス計画を活用した多職種連携

【第2部】連携研修の意義と方法

- 1章：連携研修の意義
- 2章：福祉用具の安全確認トレーニング
- 3章：福祉用具の事故防止を視点とした事例検討



白澤政和氏

●平成23年度、福祉用具の事故防止を視点とした技術・連携研修委員会 委員長
●桜美林大学 大学院老年学 研究科教授

福祉用具を安心して使っていただける環境づくりに向けて

福祉用具の利用者は一般商品のユーザーとは異なり、特別な支援を要する消費者です。従って、福祉用具専門相談員は、モニタリングの実施等を通じて、正しい利用を継続的に支援し、事故の起こらない環境づくりに努める責任があります。この環境整備に

は、福祉用具を使用している要介護者に日々関わっておられる訪問介護員の協力が不可欠です。そこで、平成23年度に訪問介護員と福祉用具専門相談員との連携研修をモデル的に実施。この結果、訪問介護員が、安全確認技術を用いて、福祉用具専門相談員とリスク管理で連携することが、事故防止に効果を発揮することを確認できました。本DVDは、この連携研修の意義と、具体的な研修方法を紹介するものです。ご覧頂き、福祉用具の事故防止に向けた環境づくりに取り組んで頂ければ幸いです。



このDVDとリーフレットは、東京都民共済生活協同組合から社会福祉法人中央共同募金会を通じた寄付金及び全国労働者共済生活協同組合連合会からの助成金で制作しました。なお、「訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」は、独立行政法人福祉医療機構・平成23年度社会福祉振興助成事業の助成を受けて、「福祉用具の事故防止を視点とした技術・連携研修事業」の一環として企画・実施したものです。

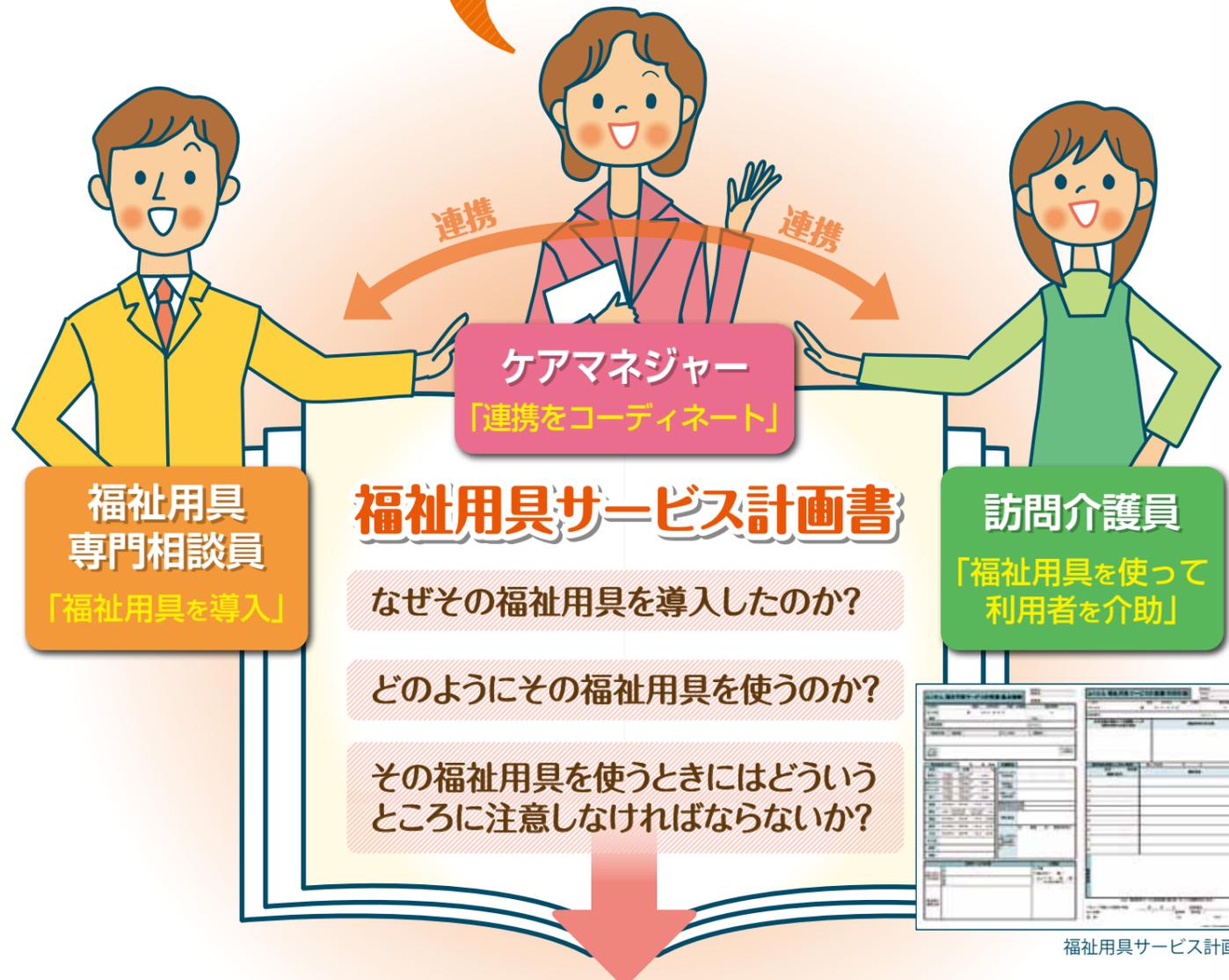
福祉用具サービス計画の活用が、安全確認、事故の予防に有効です。

【連携研修の必要性】

福祉用具専門相談員は定期的なモニタリングを行いますが、利用者に会う機会も多く、実際に福祉用具を扱う機会も多いのが訪問介護員です。

福祉用具専門相談員は、ケアマネジャーと連携し、訪問介護員が福祉用具を使う場面を把握したり、訪問介護員に福祉用具の使い方を説明する機会を確保したりするなど、福祉用具が安全に使われる環境づくりを目指してほしいと思います。

また、訪問介護員には、その福祉用具が導入された理由や使い方、使うときの注意点を、ケアマネジャーや福祉用具専門相談員から確認していただきたいと思っています。



【福祉用具における事故】

たとえば「介護用ベッド手すり」の事故…平成19年度からの5年間で、重大事故報告は**59**件。そのうち製品起因によらない(使い方の問題による)事故が約**8**割。

(参考:厚生労働省・平成24年6月6日ニュースリリース)



参加者の感想

福祉用具専門相談員

- ひやりはっぴに関する視点の違いを感じた。福祉用具専門相談員は福祉用具自体を見るが、訪問介護員はご利用者の目線からの“気づき”がある。
- 訪問介護計画書を確認し、福祉用具の事故が起きやすいポイントに目を配り、報告しあって連携を深めていきたい。サービス担当者会議で留意点を確認しあい、事故予防に活かすことを、あらためて認識した。

事故防止を視点とした

「訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」

- 普段現場で顔を合わせる機会の少ない訪問介護員と福祉用具専門相談員が、意見交換できる。
- 訪問介護員と福祉用具専門相談員が、互いの視点を学び、気づきを得られる。
- 現場での連携方法を検討し、確認しあえる。

参加者の感想

訪問介護員

- サイドレールの位置など、設置に関する事で、福祉用具専門相談員と話して初めて気がつくことが多かった。
- 車いすなど、どんどん機能が増え、使い方が変わったりと、説明書を読んでもよくわからないことが多い。福祉用具専門相談員と話せる場は貴重だと思う。
- なぜこの福祉用具なの?調節の仕方は?使い方は?など、福祉用具専門相談員に聞きたいことがある。福祉用具サービス計画書をきっかけに、情報交換する場ができるといいと思う。